

平成 23 年度第 1 回中野駅周辺まちづくり推進会議 議事要旨

1. 開催概要

日時：平成 23 年 9 月 20 日（火） 午後 3 時～ 5 時

会場：中野区議会棟第 1 委員会室

出席：委員 32 名のうち 27 名

2. 質問・意見等

委員 1

- 前回の会議の際に、次回は中野駅南口について議論すると聞いていたが、ほとんど触られていない。どういった理由からか。
- 区) 今年度の最初の会議において、グランドデザインの将来像についてご意見をいただいたうえで、次回以降では南口地区や区役所・サンプラザ地区など、より具体的なものを示していきたいと考えている。
- 現行の建築規制が厳しいため、既存建築物の建替えが進んでいない。区はもっと積極的に側面から支援してほしい。
- 情報端末機器や情報インフラの整備は税金の無駄遣いではないか。情報を発信する人材を育成したほうがよい。
- グランドデザインに「クール」という言葉を使ってよいのか。サブカルチャーは流行っているが、地域に根ざしているとまでは言えない。
- 中野は道が狭いが、建替えができれば生活空間はよくなる。現行の建築規制が大きな障害となっているため、区が建替えを誘導するような政策をとってほしい。
- 中野駅地区の高容積化・立体化、駅自体の集客機能を高めるとは駅ビルのことか。駅ビル・駅ナカには反対だ。駅以外の地区を高容積化・立体化すべきだ。
- 区) 中野駅周辺のまちづくりを成功させるのは東西南北の交通動線であり、JR の協力がなければできない。JR と一緒にまちづくりができるかどうか重要な鍵であると認識している。どのように JR に地域貢献などの役割を果たしてもらおうかを考えていきたい。

委員 2

- 東日本大震災を経験して、私たちの考え方が大きく変わった。そういった点をグランドデザインに盛り込んでほしい。
- 中野の特長は 4 つの個性的な地区があることだと感じる。均一に開発するのではなく、多様性を持たせることが大切だと考える。
- 中野中央公園の緑の広がりが中野駅地区にどのように伝わっていくのか、

中野駅地区からどのように見えるのかが重要と考える。中野駅の上を全て公園にするなど大胆な発想をしてほしい。

- 若い人は、中野には色がなくこれからどんな色にでも染められると感じている。みどりをコンセプトに、環境やエネルギー問題を考えるエコタウン中野を目指してはどうか。

委員 3

- 中野駅前の一等地に大きな公園をつくるのであれば、それなりの効果を持たせなければならない。避難場所、備蓄倉庫など災害時の対応の他にも、ソフト面でいろいろなことを考えてほしい。
- 区) 中野区役所一帯は広域避難場所としての機能を今後も強化していくべきと考えている。来年3月に竣工予定である(仮称)中央部防災公園は、災害に対応できる、防災機能を有した公園として整備を行っている。
- 建ぺい率・容積率は、一定限度のもと原則自由であってほしい。とはいえ、いいまちなみをつくっていくには、ある程度の行政指導も必要と考える。
- 中野と地方の交流を盛んにするため、中野に長距離バスのターミナルをつくってもらいたい。新宿のターミナルは複雑でわかりにくいため、中野にはわかりやすく利用しやすいターミナルをつくってもらいたい。
- 区) 中野発の長距離バスには魅力があると考えているので、バス事業者に話をしていきたい。施設のスペースについては、中野駅地区整備によって対応できるのではないかと考えている。
- 「クールナカノ」とは何を目指しているのか、「クール」とは何なのか、イメージが掴めない。
- 区) 「クール」とはカッコいいという意味で、「クールジャパン」は日本の文化が他の国の文化とちがってカッコいいということであり、中野区も中野区はカッコいいということアピールできればと考えて用いたものである。

委員 4

- 中野のまちは、昭和40年代にダウンゾーニングしており、まちづくりに影響していると思う。
- 区) 中野は住宅都市を目指していたことから、容積率の一番低い住居地域が多いという経緯がある。今後も都市計画審議会でも議論されるべきだと考えている。中野駅周辺のまちづくりによって、中野区全体のまちづくりをリードしていきたいと考えており、まちづくりのあり方問題として意識しながら議論していく必要がある。

委員 5

- 中野駅周辺は線路で南北に分断されており、東西の繋がりもない。道路の整備によって、面的な繋がりが持てるようにしなければならない。
- 区) 中野駅周辺において重要なのは交通ネットワークであり、今後も都市計画道路の計画的な整備が必要と考えている。

委員 6

- 中野二丁目地区市街地再開発の内容を知らない方が多いのではないかと考えている。グランドデザイン Ver.3 のなかで大きく取り上げ、推進してもらいたいと考えている。可能であれば当会議にも資料を提供させてほしい。

委員 7

- グランドデザインは何のためにつくっているのか。当会議の中でも理解が異なっているように感じるので整理したほうがよい。
- グランドデザインでは、それぞれのまちの具体的な計画をつくっていく際に指針となるものを示すべきである。あまり細かくなると状況が変化したときに困ってしまう。絶対にやるべき変わらないことだけを書いたほうがよい。
- これから何を残して、何をつくっていくのか、中野にとってのサステナビリティ（持続可能性）とは何なのかを確認しなければならない。
- 将来像を見ていると、区民にとっての中野駅周辺整備とは何なのかという要素が薄まっているように感じる。区民のために、税金を使ってやるべきことは何なのか、最高レベルの生活空間とは何なのかを考えなければならない。
- 景観形成はもっとコントロールできるはずだったが、意識してこなかった印象を持っている。ある程度は景観形成を意識してほしい。
- 区) 住民としての区民にとって、このまちづくりの意味は何なのか、どの世代の人も安心して便利に暮らせる、ずっと住み続けられる条件を考えていくことが、新しい東京のまちをつくっていくうえで、中野が発信できる重要なテーマだと考えている。

委員 8

- 中野駅地区整備によって、現北口広場と一番街商店街を結ぶ横断歩道が廃止される。商店街にとっては大きな話なので、折衝ではもっと気を遣ってほしかった。
- 再開発が進むと中野はより認知されるようになる。再開発によって中野駅周辺がどの程度の受け皿になれるのか、しっかりと予測してほしい。サン

モール商店街の歩道は飽和状態であり、ブロードウェイ商店街には中野通りなどを迂回して訪れる人も多い。今後は中野通り沿いの歩道がより重要視されてくる。ランドデザインの策定においては、そういった点を意識してほしい。

座長コメント

- 中野の将来人口推計は、全国に比べると緩やかな高齢化となっている。この健全さを活かし、いい形の高齢社会をどうやってつくってイけるか。
- 東日本大震災以降、国や地方の財政は縮小傾向となることが予想される。そのなかで、今だからできること、百年の計について、みなさんにご意見を伺っている。百年の計の基を築く場であることを念頭に置いていただきたい。長い目を見て、我々の世代が何をすべきか、今の時点に焦点を合わせ過ぎずに議論を深めていきたい。
- 中野は東京の都市の中でもホーム（ふるさと）感が強い都市だと感じる。地元の方々にとって、心の拠り所になる、頼りになる、いざというときに帰ってきたいと思えるようなまちを何十年後かにどうやってつくれるか。そのような構想が我々のなかでまとめていけるとよい。